

上杉と武田、両雄の侵攻を耐え抜いた山城。

本展は、皆野町にある山城から、埼玉県選定重要遺跡に指定されている竜ヶ谷城を紹介します。

同城は、山頂の本曲輪を中心とした曲輪や堀切、土塁、石積などが現在も良好な状態で残ります。北条氏邦の鉢形領を支えたこの山城は、上杉謙信の関東侵攻に伴う「秩父一乱」や、武田信玄の秩父侵攻を経て、鉢形落城後に廃城になったと考えられます。展示では、竜ヶ谷城の縄張り図をもとに山城の構造を紐解くとともに、古文書をもとに同城の歴史をたどります。

第1章 竜ヶ谷城から読み解く山城

竜ヶ谷城の縄張り図や写真をもとに、山城の基本的な施設や、竜ヶ谷城の城を守る工夫を解説します。

第2章 竜ヶ谷城をめぐる出来事

永祿から元龜年間に生じた、上杉氏の関東侵攻と、武田氏の秩父侵攻について、古文書をもとに紹介。竜ヶ谷城（千馬山城）の名前がある史料もあります。

第3章 どうする？秩父の武士

古文書をもとに、戦国期秩父の武士のリアルを追います。

◎ 竜ヶ谷城とその周辺

竜ヶ谷城がある標高約321mの山は、要害山、龍界山、千馬山と称される通り、三沢川と田野沢川に囲まれた要害の地です。周辺を見ると、三沢川右岸には妙音寺跡、北尾根を下った先には、後北条氏と武田氏の戦いに由来する「下田野あんどんまち」や、用土氏館跡があったと伝わる場所があります。城の南側には長福寺の五輪塔や、用土一族の寺と伝わる正光寺が現在も残ります。



※ 電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成。



城の中心、本曲輪



尾根を切断した堀切



石積みを伴う土塁